

# 巻 頭 言

高知女子大学看護学会長

野 嶋 佐由美

高知女子大看護学会は50年の歴史を迎えようとしています。本学会は50年前に和井兼尾先生の強い発案とリーダーシップにより船出することができました。和井兼尾学会長の意思是、その後、山崎智子学会長、山崎美恵子学会長、松本女里学会長へと引き継がれていきました。当初、看護学科の同窓会としての役割も担っていましたので、卒業生を会員として出発しました。その後、平成22年には看護学部同窓会が立ち上がり、役割分担をしつつ補完ながら、今日に至っています。すなわち、本学会が卒業生・修了生を中心とする学会であることは変わらず、それが本学会の基盤であり、ストレンクスです。

第1回の高知女子大看護学会は昭和51年1月に開催され、その後メインテーマを掲げ、基調講演、シンポジウム・分科会、研究発表など多彩な活動を展開してきました。この学会活動は、高知女子大学看護学会集録とし出版され、平成10年第23回より、全国学会を視野に入れて、「看護の研究・学術の進歩を促し、看護の実践・教育・研究の質の向上に貢献し、社会から十分な評価を得られるような学会誌」を目指して、高知女子大学看護学会誌へと発展してきました。また、本学会は看護系学会が数少なく、研究発表をする機会も少ないことを憂慮して出発しました。しかし、専門看護系学会が台頭し、全国学会での研究発表をする機会も増えたことから、口頭による研究発表のセッションは中止し、研究は学会誌への発表を奨励しています。そして、学術集会では、看護に関わるテーマを取り上げて、革新的なあるいは根幹となる考え方の紹介と現場への浸透に努めるように、方向を転換しました。

メインテーマを振り返りますと、「大学の看護教育を考える」「看護概念を考える」「人間の発達」「保健行動」「家族」「症状マネジメント」「ケアの質を高めるための方略」「看護のエキスパートネスー看護ケアの専門性の確立を目指して」「看護倫理を考える」「看護の『わざ』と『知恵』の開発を目指して」「看護とコラボレーションー質の高い保健医療サービスを提供するために」「ヘルスケアをデザインするー患者中心の医療を目指して」「社会に示す看護の力ー自立とエンパワーメントを支えるために」「看護の社会的責任ー看護職の役割拡大を考える」「未来の看護を創る人材を育成する教育」「看護を拓くナラティブアプローチ」「看護を可視化する方略」「変動する世界の中で『ケアとキュアの融合』を探求する」「人生100年時代の看護のShift」「看護におけるイノベーションの創出」と変遷してきました。変わることはない看護学の本質となる現象と時代により変化し変革が求められている現象の両方に光を当て、看護学を探究し、実践・教育・研究の質の向上に寄与することを目指してきました。

本学会も50年を迎えます。母体となる学会員は、高知女子大学家政学部衛生看護学科・看護学科卒業生、高知女子大学看護学部看護学科卒業生・看護学研究科修了生・健康生活科学研究科修了生、高知県立大学看護学部看護学科卒業生・看護学研究科修了生です。会員資格のある高知県立大学看護学部看護学科卒業生・看護学研究科修了生が増加しています。その人たちが将来ますます看護界で変革者として活躍して下さる事が期待されます。将来に向けてさらなる発展のためにも、学会の名称変更も含めて検討する時が訪れたと思います。

高知女子大学看護学会編集委員会の努力によって、第49巻を発行することができました。編集委員会及び査読者の皆様はサポーターであり、コメントは建設的です。是非、学会誌を活用し、研究成果を発信して下さることを期待しています。今後も、多くの卒業生や修了生が投稿しやすい学会誌となるように、努力を重ねて参りたいと思っています。